

之進行性麻痺ニハ不同症、強直ヲ兼併セルモノヲ早期ニ認ムルヲ鮮カ
 ラス、腦皮質疾患ノ爲ニ發スル盲目ハ瞳孔ノ反射ヲ失ハス、故ニ診斷上
 半盲症ニハ疾患占位部ヲ知ルカ爲ニ供セラル、反射弓障害ニハ盲目網
 膜半側ヲ光線ヲ以テ照ラスニ瞳孔反應消失セルモ、皮質性半盲症ニハ
 能ク反應ヲ現ス。

爾他光線反射ノ消失スルモノハ神經、若クハ視神經線、視神經交叉、前四
 疊體、眼運動神經ノ變質性萎縮トス。

深ク人事不省ニ陥レルモノ(癲癇、若クハ尿毒症發作時)瞳孔廣ク散大シ
 且ツ強直ス。

重大ナル苦悶、呼吸困難、疼痛并ニ一般知覺神經ノ刺撃ハ瞳孔ノ反射散
 大ヲ誘起ス。

視力及ヒ視野ノ驗査 Prüfung der Sehschärfe und des Gesichtsfelds.

視力減弱ノ神經性原因ニ由來セルモノニシテ其未タ輕度ナルモノヲ
 稱シテ**弱視** Amblyopic ト云ヒ、高度ノモノ(盲目)ヲ**黑内障** Ananurose ト

視力及ヒ視野ノ檢

弱視

云フ。

視力檢査ノ方法ハ、ステルレン氏ニ據リ、視野ノ測定ハ視野計ヲ以テシ、
 或ハ一點ヲ凝視シテ周邊點ヲ定ムル等ハ既ニ熟知セラレタルモノナ
 ルヲ以テ茲ニ論及セス。

視力減弱ノ治療上藥劑應用ノ爲ニ誘起セラレタルモノヲ先ツ判別ス
 ヘキハ固トヨリ冗辨ヲ要セス。

視力ノ頗ル減弱セルモノニハ眼前ニ手指ヲ示メシテ其指數ヲ謬尋ス
 ヘシ、尙ホ甚タシキモノニ至ツテハ管ニ暗明ノ差ヲ問フニ過キス。

間、視力減弱ト俱ニ視野狭小トナルモノアリ、就中其官能的ナルモノノ例
 之歇私的、里外傷性、神經症ノ如キ全然能ク治癒ニ就クヲ得ヘシ、其解剖
 的變化ニ由來スルモノ、特ニ脊髓勞及ヒ散在性硬化症ノ如キヲ最トシ、
 視神經乳嘴萎縮並ニ腦腫瘍ニ發ス、初メ未タ乳嘴ノ鬱血ニ止マルモノ
 ハ回復スヘシト雖、遂ニ乳嘴ノ萎縮スルニ及ヘハ復タ如何トモスル
 能ハス。

中心性暗真症

色神

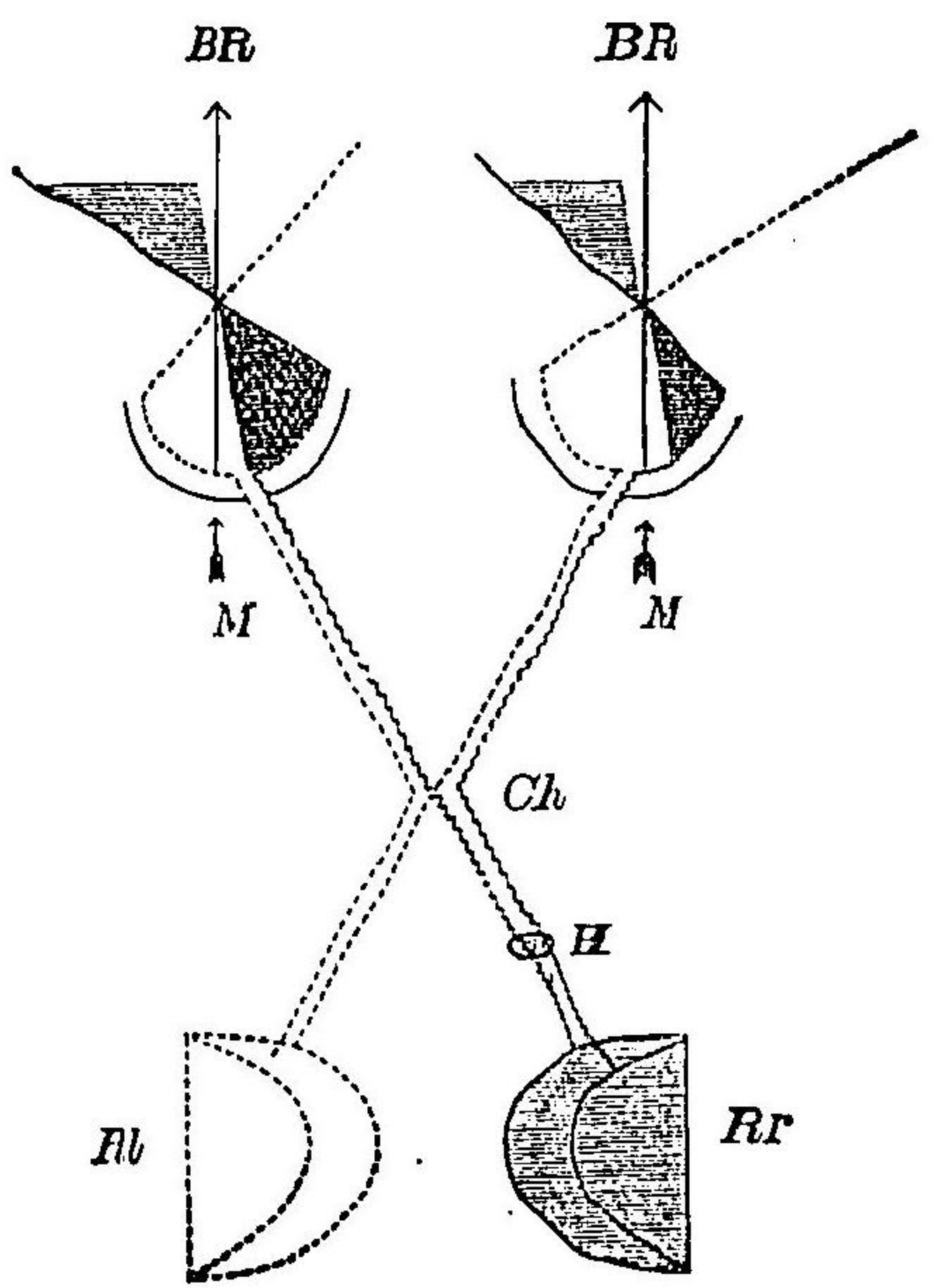
半盲症

「ニコチヌムス」Nicotinus (煙草中毒)ニハ視野中ニ間隙ヲ生ス所謂中心性暗真症 centrale Scotome トス常ニ亞米利加煙草ヲ喫スル者ニ發シ、日本煙草ヲ用フル者ニハ殆ント絶無ト稱スヘク豫后不良ノモノニアラス。

色神 Farbensinnハ特ニ官能性神經症、秋私的里及ヒ外傷性神經症ニ間、缺損若クハ消失セラル、斯クノ如キハ尤屢半身知覺脫失ノ一分症候タルコアリ。

半盲症 Hemianopie ト稱スルハ各眼球ノ一半ノミヲ以テ視ルトコロノ状態ヲ云フ、特ニ同名側ヲ侵スモノナリ、即チ兩眼ノ左半側若クハ右半側ノミハ失明シテ視ル能ハサルモノヲ云フ。這般稀有顯象ノ原因ハ兩視神經線ノ内側一半ハ相交又シ外側一半ハ直接其眼ノ偏側ニ走ルカ故ナリ。故ニ右腦ヨリ來ル右視神經線ハ兩網膜ノ右側一半ヲ司職シ、左視神經線兩左側一半ヲ主宰ス、眼中光線交叉ノ爲ニ視野ノ左半ハ網膜ノ右半ニ適應シ、視野ノ右半ハ網膜ノ左半ニ該當ス。尙ホ挿圖ニ就

第百八十一圖



半盲症
說明ノ
想像圖

イテ參照
スヘシ、
此同側半
盲症ハ既
ニ論セシ
如ク、視神
經交叉部
ヨリ後方
ニ損害ノ

占位スルモノタルヲ示メシ、交叉性半盲症之ヲ演繹スレハ、例之兩側共ニ鼻側若クハ颞顳側ノ半盲症ニシテ、視神經交叉部若クハ其周邊ノ侵カサレタルモノニ見ルトコロナリ。

尙ホ注意スヘキハ近時視神經ノ其交叉部ニ於テ完全ナル交叉ヲ人體ニ立証セラレタルノ事實ナリ、然レモ之ヲ臨床上ニ徵シテ未タ以テ直

チニ一致シ能ハス。

眼底検査ニ關シテハ専門ノ眼科書ニ就イテ見ルヘシ。

鬱血乳嘴ノ腦腫瘍診斷上ニ緊要ナルハ既ニ之ヲ論述シタリ。

自覺性光線顯象

自覺性光線顯象

Subjektive Lichterscheinungen 即チ眼火閃發ノ如

キハ間、腦神經衰弱症、歇私的里ニ見又窒扶斯ノ如キ神經系ヲ侵ス熱性病ノ初期ニ認メ、他ノ偏頭痛ニ鮮カラス。予ハ自ラ間歇熱ニ罹レル際ニ回上眼窩神經痛ト共ニ眼火閃發ニ惱メルヲアリ。

聽官

聽官

Cochleam

聽官ヲ驗スルニハ能ク談話ノ高聲、低調、將タ時辰機ノ秒音ヲ聽取シ得ルヤヲ試ムルニアリ、此際常ニ健康ノモノト比較スルヲ忘ルヘカラス。又屢叮嚀ノ耳竅ヲ填充スルカ爲ニ重聽ヲ生スルヲアルヲ忽ニスヘカラス。

中耳及ヒ外耳ノ疾患ハ耳聾ト雖モ骨傳達ニ由リ外來ノ聽感ヲ有ス、即チ時辰機ヲ密ニ顛顚骨岩様部若クハ耳朶上ニ貼接スレハ秒音ヲ聽取

神經性耳鳴

神經性耳鳴

Ohrsausen

ハ偶、腦神經衰弱若クハ貧血ノ一分症候タリ、又時ニ獨立孤存スルヲアリ、而シテ間、嫌厭ニ耐エサラシムルモノナリ、耳鳴ハ獨リ中耳疾患ノミナラス亦固トヨリ内耳疾患ニ發シ、并ニ精神病ニ認ムルヲアリ。

シ得ルモノナリト雖モ、内耳ノ疾患ニハ骨傳達モ亦俱ニ消失スルニ至ル、是レ畢竟聽神經ノ變質スルカ爲ナリ。豫後頗ル不良ニシテ、遺傳性素因ニ由ルモノ多シ、又這般重症状態ヲ間、窒扶斯、流行性感胃及ヒ猩紅熱后ニ認ムルヲアリ。

中耳化膿後ニ腦膿瘍ノ疑ヒアルヤ、骨傳達ノ存在スルモノヲ以テ大腦ニ占座スルモノトシ、其消失スルヤ小腦ニ占座スルモノトナスノ裁定ハ常ニ必スシモ正鵠ヲ得タルモノニアラス。

「メスマル」氏病ニ見ルトコロニシテ、既ニ上文ニ於テ論述セリ。
 耳疾患ニシテ顔面神經麻痺ヲ認ムルモノハ概テ中耳ノ化膿性疾患ニ
 由來スルモノナリ。而シテ其原因ノ巨擘ハ結核タリ。岩様骨化膿ハ靜脈
 及ヒ腦膜ニ波及シ、竇血栓、硬腦膜炎、腦膿瘍ヲ誘發スルコトアルカ故ニ極
 メテ緊要ナルモノナリ。

嗅官 *Gernchsin* 神經性原因ノ爲ニ嗅覺ノ消失スルモノヲ稱シテ嗅覺脫失 *Osme*
osmie ト云フ、然レ此世上最屢、遭遇スルトコロノモノハ鼻ノ炎症若クハ腫瘍
 ニ由來スル嗅覺減弱ナリトス。神經性嗅覺脫失ハ往々獨立シテ存在シ、又偶々
 頭蓋前窩疾患ノ一徵タリ。又官能的ニハ歇私的里性半身知覺脫失ニ隨伴ス。
 歇私的里、妊娠、睡眠術中、及ヒ幾多精神病者ニ嗅覺過敏 *Hypersensitiv* ナ
 モ大狗ノ如ク幽微ニ聞嗅ス、又嗅覺錯誤 *Parosmie* ナ發スルコトアリ。
 味官 *Geschmacksin* 鼓索神經ハ舌ノ前三分ノ二チ司職シ、舌咽神經ハ後三分ノ
 一チ主宰ス。之ヲ驗スルニハ舌ノ各側ニ齶ラスニ生薑、食鹽、酢、規尼涅ノ如キ
 辛、鹹、酸、苦ノ諸味ヲ以テスヘシ。之ヲ舌上ニ齶ラシ患者ノ舌ヲ牽引セザルニ
 先チ拭除スヘシ、然ラサレハ他側ニ擴汎シテ其部ノ味覺ニ由ツテ判知スル
 ノ虞アレハナリ。
 味覺脫失 *Ageusie* 味覺過敏 *Hypersensitiv* 味覺錯誤 *Parosensitiv* 皆味神ノ障害タリ。味

覺脫失ハ概テ子偏側ニ發スルモノニ岩様骨疾患ニ由來スル鼓索神經麻痺
 ノ爲ニ生ス。口腔炎、舌蒙苔、多數胃腸疾患、並ニ熱病ニ味覺ヲ障害セラルハ
 世人ノ普ク知了スルトコロナリ。

神經疾患ニ於ケル
呼吸器

神經疾患ニ於ケル呼吸器 *Der Atemapparat bei Nervenleiden.*

鼻茸ハ軌近ニ違フテ反射的ニ頭痛、昏瞶及ヒ諸般神經症ヲ誘起シ得ル
 モノタルコトヲ証明セリ。鼻咽頭ニ於ケル増殖ハ就中屢小兒ノ精神機能
 フ妨ケ、痴鈍、嗜眠等ヲ誘起ス(鼻性腦力減少症 *Aprosexie*)。
 脊髓勞經過中ニ偶々強劇ノ神經性咳嗽發作ヲ來スコトアリ、所謂喉頭發症
Larynxkrise ト稱スルモノ是レナリ。
 神經性ニシテ喘クカ如キ發作性呼吸困難若クハ吃逆ヲ發スルハ特ニ
 歇私的里ニ認メ、又重症脚氣ノ呼吸筋麻痺ニ見ルトコロナリ。

循環器 *Circulationsystem.*

最緊要ナルハ心臟ノ診査ニシテ腦溢血ニ於テ、然リ、又消散性潮紅斑ヲ

循環器

消化器

顧慮スヘキ等ハ既ニ上文ニ論述セリ。
消化器 Verdaunungssystem.

無熱ニシテ舌尖ノ震揚スルモノハ高度ノ神經障害ニ屬ス。舌ノ纖維性
搖擗ニシテ萎縮ヲ兼スルモノハ特ニ延髓球麻痺ニ見ルトコロナリ(舌
下筋萎縮)又進行性麻痺ニ發ス。

流涎 Salivation ハ往々歇私的里性ノモノニシテ、又間、進行性麻痺及延髓
球麻痺ニ發ス。顔面神經麻痺ニハ唾液自然ニ口角セリ滴瀝ス。

嘔吐 Erbrechen ハ既ニ屢上文ニ於テ論述シタリ、神經性及ヒ胃性兩嘔吐
ノ區別ハ胃疾患ノ條下ニ就イテ參看スヘシ。

日本ノ如ク普ク腸寄生蟲ノ傳播セル邦國ニ於テハ小兒ノ神經症ニハ
常ニ其原因トナルヲ忘ルヘカラス。蛔蟲及蟯蟲ハ頭痛、神經症、異常興
奮性ヲ惹起スルヲ鮮カラス、其慢性ノモノニ至ツテハ癲癇様痙攣ヲ發
セシムルヲアリ。

大便失禁 Incontinencia alvi ハ屢脊髓炎及ヒ人事不省ノ状態ニ際シ認ムル

泌尿器

トコロニシテ脚氣ニハ未タ會ツテ見サルトコロナリ。

泌尿器

Harnapparat ニ關シテハ尙ホ前文分泌障害ノ條下ヲ參照ス

ヘシ。

尿閉 Retentio urinae ハ其輕症ノモノニハ排尿頗ル緩徐ニシテ活氣ナク、
或ハ完全ニ排出シ盡クナス、重症ニハ毫モ尿ノ排泄ヲ見サルモノナリ。
尿閉ノ原因ハ利尿筋麻痺ニアリ。尿失禁症ニハ括約筋麻痺シ、不隨意ニ
排泄セラル。間、兩症合併シ、特ニ脊髓勞多ク輕症ナリ)及ヒ脊髓炎、并ニ進
行性麻痺ノ末期ニ發ス。

最緊要神經疾患ノ症候 Die Symptome

der wichtigsten Nervenkrankheiten.

腦性麻痺

腦性麻痺

Cerebrale Lähmung.

片癱

片癱(半身不隨症)

Hemiplegie 其原因ハ

(a) 多ク「アトロマ」性硬變

セル小血管破裂ノ腦大神經節(内囊近傍)ニ發セルモノニシテ即チ腦溢

最緊要神經疾患ノ症候

八百二十五

血 Apoplexie トス、俄然トシテ頓發シ人事不省ニ陥ルモノナリ。(b) 栓塞ニシテ多ク「ジルウキ」氏溝動脈ノ一枝中ニ生スルモノナリ、心臟疾患若クハ血栓ヲ證明シ得ヘク、突然トシテ起コリ間、失語症ヲ兼ヌ (c) 腦梅毒ニシテ他ニ梅毒ノ標徴ヲ認メ、比較的若年ノ輩ニ發シ、麻痺ノ消失スルノ間、甚タ速カニシテ、驅梅毒療法ノ効力顯著ナルモノナリ (d) 尿毒症、鉛中毒トス、其標徴ハ(尿中蛋白ヲ含ム)尿毒症ニハ往々失明ヲ發ス (e) 老人ノ單純「アテローム」 (f) 進行性麻痺ノ初期若クハ經過中ニ間、半身不隨ノ輕症發作ヲ認ムルコトアリ (g) 歇私的里性半身不隨ハ稀有ニシテ間、突然トシテ治癒ス、其疑ハシキモノハ驅梅毒法ヲ試ムヘシ。

主要症候ハ舌下神經、下顔面神經、手腕、脛脚麻痺ニ陥リ、膀胱直腸ハ之ニ與ラス。知覺障害ハ輕微ニ止マルカ或ハ絶無ナルモノナリ。普通占位部ハ既ニ上文ニ論述セリ。搖擗、失語症、頭痛、瞳孔不同若クハ局所麻痺ヲ併發セルモノハ腦皮質中ニ占位スル標徴ニシテ、片側ニ顔面神經麻痺シ、

腦腫瘍

他例ニ手腕脛脚ノ麻痺ヲ生セルモノハ原因髓橋ニ宿ス、腦溢血后ニ全身痙攣ヲ發スルモノハ中室ニ破裂セルモノニシテ、發病スルヤ直ニ死ニ抵ルモノハ延髓ヲ侵襲セルモノ、標徴ナリ。

腦腫瘍

Hirnhornen

概テ漸ヲ以テ進ムモノニシテ頭痛、嘔吐、精神朦朧眩暈、痙攣等ヲ發ス、爾他腫瘍形生ノ位置ニ據リ局所的症候ヲ伴フ、多クハ腦皮質症候ニシテ既ニ上文ニ論述シ第百六十二圖及ヒ第百六十三圖ニ示メセルモノニ就イテ見ルヘシ、或ハ頭蓋底症候ニシテ腦神經所在ノ關係ニ據リ各固有ノ症候ヲ呈ス、尙ホ腦腫瘍ニハ鬱血乳嘴ヲ來スヲ忘ルヘカラス。

腦膿瘍

腦膿瘍

Hirnbacces

臨床上其症候ハ頗ル腫瘍ニ肖似スト雖モ、概テ鬱血乳嘴ヲ飲キ、發熱ヲ伴フ、且ツ外傷骨折等ノ原因トシテ據ルヘキアリ、特ニ多年ヲ經テ發スルコトアリ、岩様骨部若クハ他ノ頭蓋骨化膿或ハ遠隔化膿竈ヨリ栓塞ヲ生セサルヤヲ常ニ探究セサルベカラス。

腦梅毒

腦梅毒

Hinsyphilis

症狀一樣ナラスシテ時ニ腦腫瘍ニ酷似シ、時ニ

腦溢血ノ如ク、又時ニ精神症狀ヲ以テ優ルコトアリ。多ク夜間ニ増悪シテ
敲打スルカ如キ頭痛ヲ訴ヘ、精神漸次魯鈍様トナリ、梅毒ノ徵候ヲ有シ
驅梅法ニ由ツテ良結果ヲ見ル。

單純性若クハ結核
性腦膜炎

單純性若クハ結核性腦膜炎 Meningitis simplex oder tuber-

culosa 就中小兒ニ認め好シテ頭蓋底ニ占坐ス。漸次若クハ急速ニ侵襲
スル消化障害、嘔吐、便秘ヲ發シ、睡眠穩妥ヲ缺キ、舉止尋常ナラス、尋イテ
發熱、痙攣、發作ヲ生シ、脈搏緩徐トナリ、腹部陷凹シ、項部強直、瞳孔症狀、嗜
眠等ヲ發スルニ至ル。顱門未タ閉鎖セサルモノニ在ツテハ同部隆起シ、
強ク搏動ス。小兒ニハ結核恰カモ腦膜ニ原發セルカ如ク、成人ニハ殆ン
ト常ニ他ノ臟器ニ結核ノ存在ヲ認ムルモノナリ。

腦脊髄膜炎

腦脊髄膜炎 Meningitis cerebrospinalis 其經過恰カモ室扶斯ニ肖似シ、

稍高熱ヲ生シ、初期劇烈ノ頭痛ヲ訴ヘ、時ニ譫語ヲ發シ、精神朦朧、項部強
直、瞳孔症狀等ヲ呈ス。脈搏ニハ特ニ固有トナスヘキモノナク、皮膚及ヒ
筋肉ノ知覺過敏トナリ、就中脛脚ニ著ルシ、間、尿閉ヲ發シ、蛋白尿ヲ排

進行性延髓球麻痺

泄ス。日ヲ逐フテ麻痺ニ陥リ昏睡遂ニ死ニ抵ルモノ多シ。
進行性延髓球麻痺 Progressive Bulbarparalyse 漸次顔面神經

及ヒ舌ノ萎縮性麻痺ヲ生シ、舌ノ纖維性搖擗ヲ伴フ、遂ニ舌下神經、迷走
神經ヲ侵シ、爲ニ嚥下及ヒ呼吸ノ困難ヲ發シ、嚥下肺炎ヲ誘起スルニ至
ル。時トシテ原發シ、時トシテハ進行性筋萎縮、側索硬化、進行性麻痺ノ末
期ニ續發ス。

脊髄炎及ヒ脊髄ノ
壓迫

脊髄炎及ヒ脊髄ノ壓迫 Myelitis spinalis und Kompression des

Rickenmarks 常ニ能ク周到ナル脊柱驗査ヲ施コサ、ルヘカラス。往々脊
柱炎若クハ梅毒ヲ証明シ得、又間、毫モ原因トシテ見ルヘキモノナキ
コトアリ。其症候ハ官能の障害ニシテ、特ニ運動性タリ、時ニ運動、知覺兩性
タルコトアリ。反射弓自家ノ障害ヲ蒙ラサルヤ反射ノ亢進ヲ生ス。
頭髓部ニ於ケル脊髄炎ハ兩側手腕及ヒ脛脚ノ麻痺ヲ發シ、多ク知覺過
敏若シク脱失ヲ伴ヒ、間、疼痛ヲ感ス、時ニ痙攣様顯象アリ、腱反射頗ル亢
進シ、膀胱、直腸ニ障害アリ。

胸髓部ニ於ケル脊髄炎ハ手腕ノ麻痺ヲ發セス。

腰髓部ニ於ケル脊髄炎ハ手腕、胸腹部障害ヲ蒙ラス、脛脚麻痺シ、膀胱直腸モ亦然リ、知覺強ク障害セラレ、其第三乃至第五腰髓ニ占坐スルヤ腿反射消失シ脛脚弛緩ス、然ラサレハ痙攣様トナルモノナリ。

痙攣様顯象ノ優カニ麻痺ニ超越セルモノヲ稱シ痙攣性脊髄炎 Spastisches Spinalähmung ト云フ、此際膀胱直腸ハ概テ障害ヲ蒙ラス。

脊髄勞

脊髄勞 Tabes dorsalis 初メ下肢ニ電擊狀疼痛ヲ感シ、知覺鈍麻シ、暗處透進(ロンベルグ氏症候)ヲ發シ、疎大力ヲ保有ス、且ツ膀胱衰弱ヲ來ス、膝蓋腿反射全然消失シ、瞳孔強直ス、間、視神經萎縮ヲ生シ、遂ニ麻痺ニ陥ル。

多發性散在硬化

多發性散在硬化 Multiple Herdsklerose 其症候顯著ナルハ甚タ稀レナル病症ナリ、注意震顫、スカンデーレンド語調、腿反射亢進、痙攣性歩行等ヲ發ス。

震顫麻痺

震顫麻痺 Paralysis agitans 安靜時ニ於ケル手足若クハ全身ノ整調

進行性筋萎縮

的震顫ニシテ、手指特有形狀ヲ生シ、筋肉ノ勁硬アリ、上半身前屈シテ歩行ニ際シ前方ニ顛倒セントスルノ傾向アリ、頻リニ體位ヲ變セント欲スルノ意向ヲ示メシ、顔貌痴呆様ナリ。

進行性筋萎縮

Progressive Muskelatrophie 脊髄性ノモノニシテ末梢ノイローン神經細胞萎縮ノ爲ニ四肢若クハ他部ノ漸進性單純萎縮ヲ發スルモノナリ、纖維性筋搖蕩ヲ生ス。

小兒脊髄麻痺

小兒脊髄麻痺 Spinale Kinderlähmung 突然發熱ヲ以テ起ルトコロノ一肢若クハ數肢ノ弛緩性麻痺ニシテ、殆ント管ニ小兒ノミヲ侵ス、腿反射全然消失シ、筋肉變質性萎縮シ、知覺ハ尋常ニシテ、患肢ノ發育停休ス、内翻馬蹄足ヲ伴フ續發性痙攣ヲ生シ、間マ營養障害ヲ認ム。

脚氣

脚氣 Kake 之ヲ演繹スレハ末梢性多發神經炎ナリトス、知覺運動兩性末梢ノイローンノ障害ヲ蒙ルモノニシテ、先ツ痙麻ヲ下脚ニ生シ、倦怠ヲ覺エ、足趾ヲ以テ草履ノ鼻緒ヲ挿ムヲ能ハス、高度ナルニ及ンテハ萎縮弛緩性麻痺ニ陥リ、膝蓋腿反射ハ初期ヨリ既ニ消失セルアリ或ハ

神經癩

初メ亢進シ、后チ遂ニ消失スルモノアリ。回復期ニ至ツテ間マ亢進ス。腓腸筋ニ壓痛ヲ感シ、感傳電流興奮性減退シ、變性反應ヲ徵ス。高度ノ者ハ上肢モ亦俱ニ侵襲セラレ口圍ニ波及シ時ニ全身ニ汎發スルコトアリ。尿量減少シ、間々蒼白性水腫ヲ發シ、脈搏頻數トナリ、發熱セス。惡性(衝心性)ノモノハ初期ヨリ呼吸筋及ヒ心臟ノ麻痺ヲ發ス。

神經癩

Nervenlepra

末梢神經、就中尺骨神經及ヒ大耳神經甚シク肥厚硬變シ時ニ不同ナシト雖モ亦結節様トナル、皮膚ニ知覺ノ鈍麻若クハ脱失セル紅色斑點或ハ結節ヲ生ス。眉毛、睫毛脱落シ、筋肉弛緩萎縮シ、手ノ拇指球、小指球消滅シ(猿猴掌)、重症ニハ骨質吸收セラレ、指趾ヲ失フ(劇侵癩 *Lepra mutilans*)。腱反射ハ獨リ險惡症ニノミ消失シ、他ハ一般ニ亢進ス。

第八編

微菌學的診斷

Bacteriologische

Diagnostik.

微菌學ハ醫事雜誌ノミナラス、殊ニ政治的雜誌ニ於テモ亦記載豐富ニシテ、大ニ世ノ信ヲ惹カクナルモ、診斷學上今尙ホ臨床的ノ價値ヲ有スルコト遙ニ尠ナシ。彼ノ結核癩病、虎列刺及痲病ノ如キハ、其固有ノ寄生物ヲ發見セサル以前ニ於テ、皆ナ能ク之ヲ診斷スルコトヲ得タリ、故ニ醫士ニシテ診斷上常ニ該微菌ノ證明ヲ必要トスルモノハ、未タ醫學ニ精通セサルモノナリ。實際該微菌ノ證明ハ今尙ホ診斷ヲ下タスノ用ニ非スシテ、其診斷ヲ確定スルニアリ。又種々ナル寄生物ヲ相錯誤スルノ恐れ極テ大ナルモノニシテ、既ニ微菌學ニスラ明示セル如ク、疑ハシキ場合ニハ必ス常ニ専門家ヲ煩ハサ、ルヲ得サルモノトス。今ニシテ之ヲ回顧スレハ一時ハ皆ナ、虎列刺微菌ニハ一定ノ徵標アリテ以テ確カニ之ヲ認知シ得ベシト信シタリキ、然モ後チ其病原ト看做セル徵標ハ爾

他ノ細菌モ亦之ヲ發起シ得ルヲ證明スルニ至テ始テ其確信スベカラサルヲ知レリ。

然レ余ハ素ヨリ之ヲ以テコッフ氏バストル氏及其門弟等ノ大功績ヲ減縮スルモノニ非スシテ却テ其將來ニ於テ尙ホ多ク診斷學上ノ裨益アルヲ保証スルモノナリ。余ハ只々數多ノ學生及素人等カ從來奏功シタルモノヨリ遙ニ過大ノ想像ヲ逞フスルヲ痛言スルノミ。

本書ハ診斷學上只々實地必要ノモノ、ミヲ指示スルカ故ニ茲ニハ全ク略記スルノミ。

検査方法ノ精細ハ書籍ノミニ由テ習得スベカラス故ニ其方法全般ヲ知ラント欲セハ宜シク教師ニ就テ示導ヲ受クベシ。

細菌ノ顯微鏡的検査ヲ行フニハ(一)新鮮ナル標本ヲ製シ或ハ着色シ或ハ染色セス(二)着色シタル乾燥標本ヲ用ユ(三)適當ナル培養基ニ之ヲ培養スルモノナリ。

細菌検査ニハ強ク之ヲ擴大スルト甚々明朗ナル光線ヲ要スルモ幸ニ

密光器ノ備ヘアリテ以テ羞明ヲ避ケ得ヘシ總テ使用スヘキ器械及針等ノ如キハ素ヨリ嚴密ニ消毒シ其他空氣中ヨリ毫モ來襲スルモノナカラントヲ要ス。

運動機能ヲ保有スル所ノ細菌ニ對シテハ素ヨリ新鮮ナル生存的ノ検査ヲ施行スルヲ最佳トス然レ又錯誤ヲ防クカ爲ニ往々他ノ方法ヲ用ユルヲアリ。此新鮮ノ検査法ハ麻刺里亞及再歸熱ニ於ケル血液寄生物ノ運動スルモノニ對シテ最モ正確ナリ而テ此等ノ疾病ニ於テハ實際顯微鏡ハ急速ニ診斷ヲ確定シ得ルモノナリ。

着色法

着色法ニ要スル所ノ溶液ハ種々アリ彼ノ石炭酸フクシン及ガ―ベット氏溶液ヲ以テスル結核菌ノ着色法ハ既ニ肺疾患ノ條下ニ論述セリ數多ノ細菌ニ對シテ共同應用サルモノハ左ノ如シ。

(一)リョフレ氏「メチーレンブラウ」溶液 Löffler'sche Methylenblaulösung.

濃厚ナル「メチーレンブラウ」ノ亞爾個保兒溶液 三〇立方仙迷

リョフレ氏「メチーレンブラウ」溶液

着色法

グラム氏着色法

(三)グラム氏着色法 Gram'sche Färbung.

〇〇一%ノ加里滷汁

一〇〇立方仙迷

一分ノ「アニリン」水ニ二十分ノ蒸餾水ヲ加ヘテ振盪シ、乾燥シタル濾過紙ヲ以テ之ヲ時計皿ニ濾過シ、以テ「ゲンチアナウイオレット」ヲ加ヘ其上層皮ヲ形成スルニ至ル、此液ハ常ニ新製スベシ。標本ハ先ツ注意シテ火焰上ニ乾燥セシメテ一二分時間此液ニ入レ、後チ半分時間左ノ溶液(沃度一、〇沃度加里二、〇水三〇、〇)ニ投入スヘシ。而テ亞爾個保兒ヲ以テ脱色セシムルキハ、只タ或ル種ノ細菌ノミ脱色セサルモノナリ。

培養法

培養法

Das Kulturverfahren ハ廣汎ナリ、其各法ノ如キハ茲ニ論述セ

ス。然ルニ其主點ハ、細菌ノ胚腫ヲシテ適當シタル培養基ニ種殖セシムルニアリ、而テ其胚種ハ非常ニ增多シテ所謂集落ヲ形成スルモノナリ。最良ノ培養基及必要ノ温度等ハ各種細菌ニヨリテ又種々差異アリト雖モ、最モ多ク使用サル、モノハ乾藻 (Agaragar) 膠質肉漿、血清及此等ノ混

化膿性葡萄球菌

和物ナリ。總テ細菌ノ増殖スルハ恐ラク種子若クハ萌芽ニ由ルベシト雖モ、未タ細菌ニ之ヲ證明シタルモノナシ。此等萌芽ハ、往々抵抗力甚クシテ有効ナル消毒法及防腐法ハ甚タ困難ナルモノナリ。

化膿性葡萄球菌

Staphylococcus pyogenes ハ通常ノ膿膜菌ニシテ、

或ハ白色ナルアリ、或ハ黄色ヲ呈スルアリ、即チ圓形顆粒ノ層々相集簇セルモノニシテ(希臘語「スタヒロス」ハ葡萄ナリ)グラム氏法ニ由テ脱色セサルモノナリ。

連珠狀菌又鏈鎖狀菌

Streptococcus (羅) Kettenpilz (獨)ハ圓形小

顆粒ノ數珠狀ニ相連繫セルモノニシテ、其個々ノ顆粒ハ葡萄狀菌ニ於ケルト殆ント同一ノ外觀ヲ呈ス、而テグラム氏法ニヨリテハ脱色セス、此菌ハ蜂窩織炎ニ認ムル所ニシテ、屢々膿血症及産褥熱ニ於テ見ルアリ、又實扶的里細菌ト併發スルアリ、或ハ獨リ膿胞性咽喉炎ニ來ルアリ。其他丹毒モ亦連珠狀菌ニ由テ發起サル、モノナリ。

連珠狀菌又鏈鎖狀菌

實扶的里桿菌

實扶的里桿菌

Diphtheriebacillen (リョフレル氏桿菌) Löfflersche

Bacillen) ハ大小不同ナル細小菲薄ノ桿菌ニシテ、其尖端ハ強ク着色スルモノナリ。リョフレル氏ノ「メチーレン」ブラウ「溶液」ニ由テ二三分時間ニ着色スベシ。他ノ葡萄狀菌及連鎖狀菌ノ如キモ亦咽喉ニ類似ノ被膜ヲ呈スルコアルヲ以テ、此菌ノ診斷ハ極テ緊要ノモノトス。又「ベエリ」ング氏血清ハ殊ニ真正ノ實扶的里ニ對シテ効驗アレハナリ。然レ諸他ノ桿菌、所謂假性桿菌モ亦甚タ實扶的里桿菌ニ類似スルカ故ニ、往々之ヲ培養シテ始テ區別シ得ルコアリ。然リ而シテ被膜ノ最小片ヲ取り先ツ五十倍ノ硼酸水ヲ以テ洗滌シ、豫メ硝子板上若クハ試驗管中ニ凝固セシメ且ツ血液ヲ塗布シタル乾藻或ハ膠質ニ之ヲ塗擦スベシ。又血清及肉漿モ甚タ之ニ適當ス。其集落ヲ形成スルニ至レハ、既ニ顯微鏡下ニ實扶的里桿菌ヲ檢知シ得ベシ。之ヲ海豚兒ニ接種スルキハ死亡ス。總テ被膜ノ消失シタル後チ、數日及數週間ハ尙ホ有毒ナル實扶的里桿菌ノ咽喉ニ存在スルコアルヲ以テ、病後モ亦大ニ注意スベキ必要アリ。

空扶斯桿菌

空扶斯桿菌

Typhusbacillen ニ就テノ詳細ト其結腸桿菌トノ區別

ハ業ニ既ニ腸内容ノ顯微鏡的檢査ニ於テ論述セリ。之ヲ培養スルニハ、培養基ニ一%ノ沃度加榴譚ヲ加フルキハ容易ニ且ツ迅速ナルモノ、如シ(エル)スチル氏法 (Eisner'sche Methode)

虎列刺桿菌

虎列刺桿菌

Cholera bacillen モ亦既ニ論シタル如ク、短小且ツ彎曲シ

タル桿狀菌或ハ螺旋狀菌ニシテ、虎列刺糞便ノ塊片中ニハ非常ニ多ク之ヲ發見シ得ベシ。然レ診斷ヲ確定スルニハ多ク培養ヲ要スルコアリ、是レ所謂虎列刺赤色ハ他ノ微菌ニ由テ亦發現スルコアレハナリ。而テ糞便中ヨリ粘液凝塊ノ一片ヲ取り、六時間餘血溫度ニ於テ左ノ殺菌シタル亞爾加里性溶液(食鹽〇、五百布頓一、〇水一〇〇、〇)ニ入レ置クベシ、然ルキハ増殖スル虎列刺桿菌ハ其表面ニ於テ潤濁シタル薄層ヲ形成スルモノナリ。之ヲ板狀若クハ管狀ノ乾藻培養基ニ接種スルキハ、十時間後ニハ該部ニ白色點ヲ生ス、白點ハ表面ニ達シテ、其中心ハ乾藻溶解スルモノナリ。試驗管中ニ於テ刺接ヲ試ミタルモノニハ、其溶解部ハ漏

斗形ヲナシ、上方ニハ氣泡ヲ有シ、下方ニハ細小ノ線ヲ曳クモノナリ。弱ク之ヲ擴大スルキハ、板狀培養ニ於テハ圓形ニシテ光澤アリ且ツ細微顆粒ヲ呈シ恰モ粉碎セル硝子ノ觀アリ。茲ニ至テハ既ニ海豚兒ニ接種スルヲ得ベシ。

這般ノ方法ハ皆ナ練熟ノ手ヲ埃テ始テ正確ノ成績ヲ得ルモノナリ、是レ他ナシフレンケル及ブリヨル氏桿菌及他ノ無害桿菌モ亦甚々相類似セルヲ以テナリ。

加之培養自己ニ由テモ亦正確ニ區別シ能ハサルモノ、如シ故ニ從來日本ニ於テ培養ニ由テ診斷シタルモノハ、充分ニ之ヲ証明スルノ効力ナキモノナリ。

肺炎重球菌

肺炎重球菌

Pneumodiplokokken (フレンケル氏)ハ多クハ透明ナル

被囊中ニ於テ二個相對接スル所ノ球菌ニシテ、其末梢端ハ僅ニ尖レリ。グラム氏法ニ由テ着色ス。肺炎ニ見ル所ニシテ、又多クノ肋膜炎、腦膜炎、耳ノ化膿及耳下腺炎等ニ在テ檢出スルコトアリ。

疥癬病菌

疥癬病菌

*Gonokokken*ハ重球菌狀ニ膿細胞中ニ集簇ス。疥癬ノ病毒

タリ。(第百五十五圖)

癩病桿菌

癩病桿菌

*Lepra bacillen*ハ着色ノ方法等全然結核桿菌ニ同シ、然

之レヨリ細小菲薄ニシテ數個相集簇セリ、而テ或ハ患部ノ組織中即チ神經及ヒ皮膚ニ現存シ、或ハ特種ノ上皮樣細胞即チ所謂癩病細胞中ニ存在スルモノナリ。

血液寄生物

血液寄生物

Bilparasiten

再歸熱螺旋狀菌及麻刺里亞寄生小體ニ就テハ、既ニ血液ノ顯微鏡的檢査ニ於テ論述セリ。然ル該章刊行後ニ至リ熱帶地方ノ重症麻刺里亞及再歸熱ヲ日本ニ輸入セリ、故ニ此等ノ寄生物ニ就テ尙ホ少シク詳論スルノ必要ヲ生セリ。

麻刺里亞寄生小體
三日熱性寄生體

麻刺里亞寄生小體

Malaria plasmodium 從來日本ニ於テ經驗セシ

所ニ據レハ、只タ三日熱性寄生體 *Tertianparasiten*ノミナリキ其四十八時間ニ發育スルノ狀態ハ第百十二頁後ノ着色圖ニ表示セリ。

此寄生體ハ其初期ニ在テハ活潑ニ運動シ、且ツ種々ナル突起ヲ形成スルモノニシテ、日本固有ノ三日間歇熱ノ原因タルモノナリ。日本ニ於ケル毎日熱ハ實際、隔日ニ發作スル三日熱ノ二個相合併セルモノナラン。四日熱性及毎日熱性寄生體ハ臺灣ニ於テ甚タ多シ、故ニ近來渡臺ノ軍人及軍夫等ヨリ大ニ内地ニ傳播セリ。中西學士ハ之ニ就テ最モ有益ナル檢査ヲ遂ケ、其寄生體ノ全ク、伊太利、匈牙利及爾他熱帶地方ニ存在スルモノト、相一致セルヲ証明セリ。

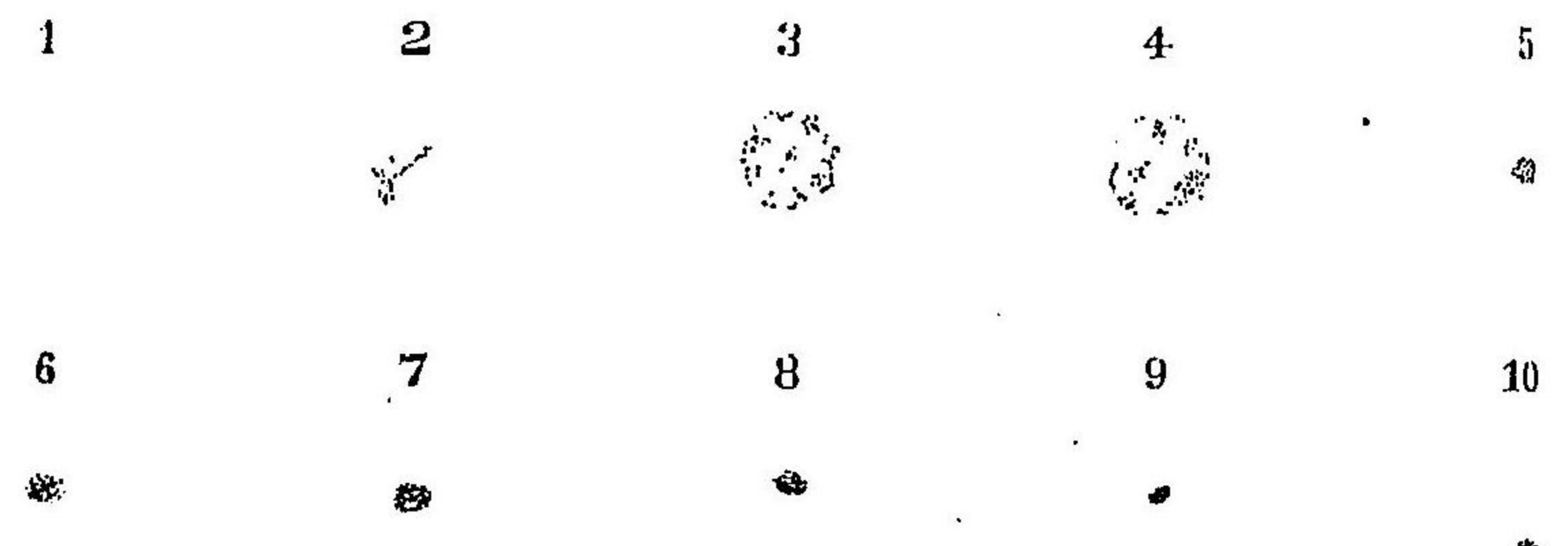
四日熱性寄生體

四日熱性寄生體

Der Quartanparasit ハ血球中ニ來リ、初メハ透明

無色ノ小斑點ニシテ、甚タ緩徐ナル「アメーバ」様運動ヲナスモ、二十四時間後ニハ不動ノ色素沈着ヲ呈ス。寄生體ハ發育シテ全然血球體ヲ充填スルニ至レハ既ニ運動スルヲナシ。茲ニ至テ色素ハ其中心ニ集合シ、寄生體ハ放線狀即チ菊花樣ニ六乃至十二個ノ萌芽ニ分解シ、後チ全ク個々ニ分離ス。第百八十二圖。此萌芽ノ形成ハ熱ノ發作ヲナスモノニシテ、七十二時間毎ニ來ルモノナリ、即チ一日熱候アリテ次キノ二日間ハ無

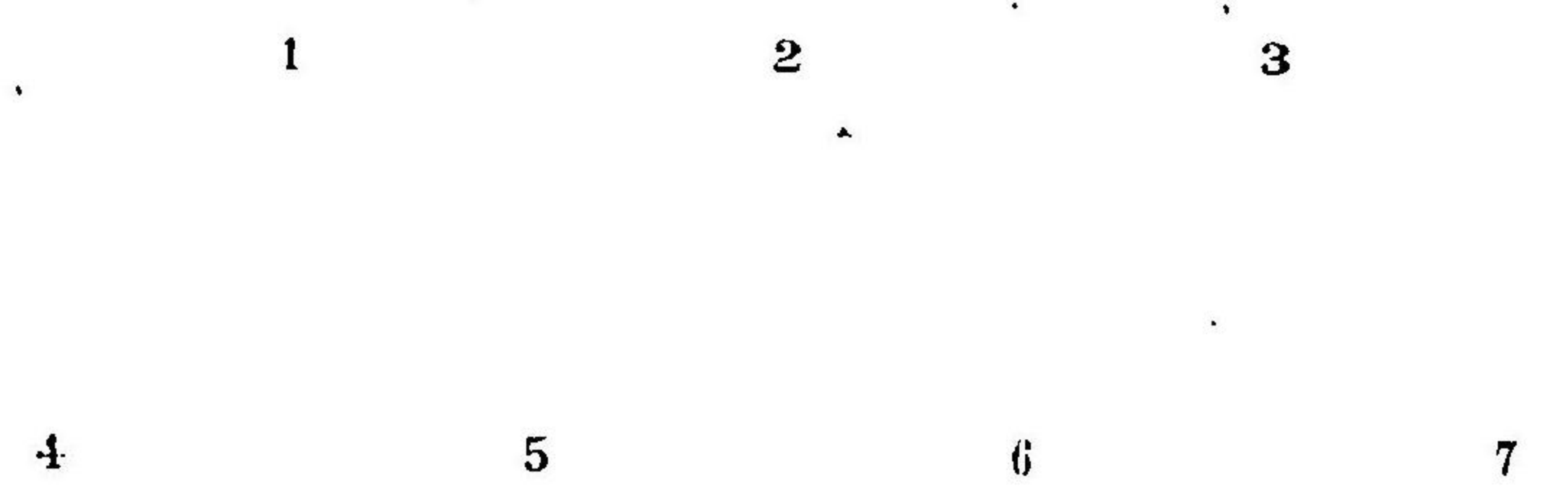
圖二十八百第
 着發ノ休生寄性熱日四



圖三十八百第
 着發ノ休生寄性熱日毎ルス有ヲ素色



圖四十八百第
 着發ノ休生寄性熱日毎ルサセ有ヲ素色



每日熱性寄生體

熱ナルモノナリ。若シ發育時期ヲ異ニスル數多ノ寄生體ニシテ、同時ニ一身中ニ存在スルキハ、二個若シクハ三個ノ四日熱相併發スルコトアリ。此寄生體ハ臺灣ニ於テ甚タ多シトス。

每日熱性寄生體 Der Quotidianparasit (第百八十三圖及第百八十

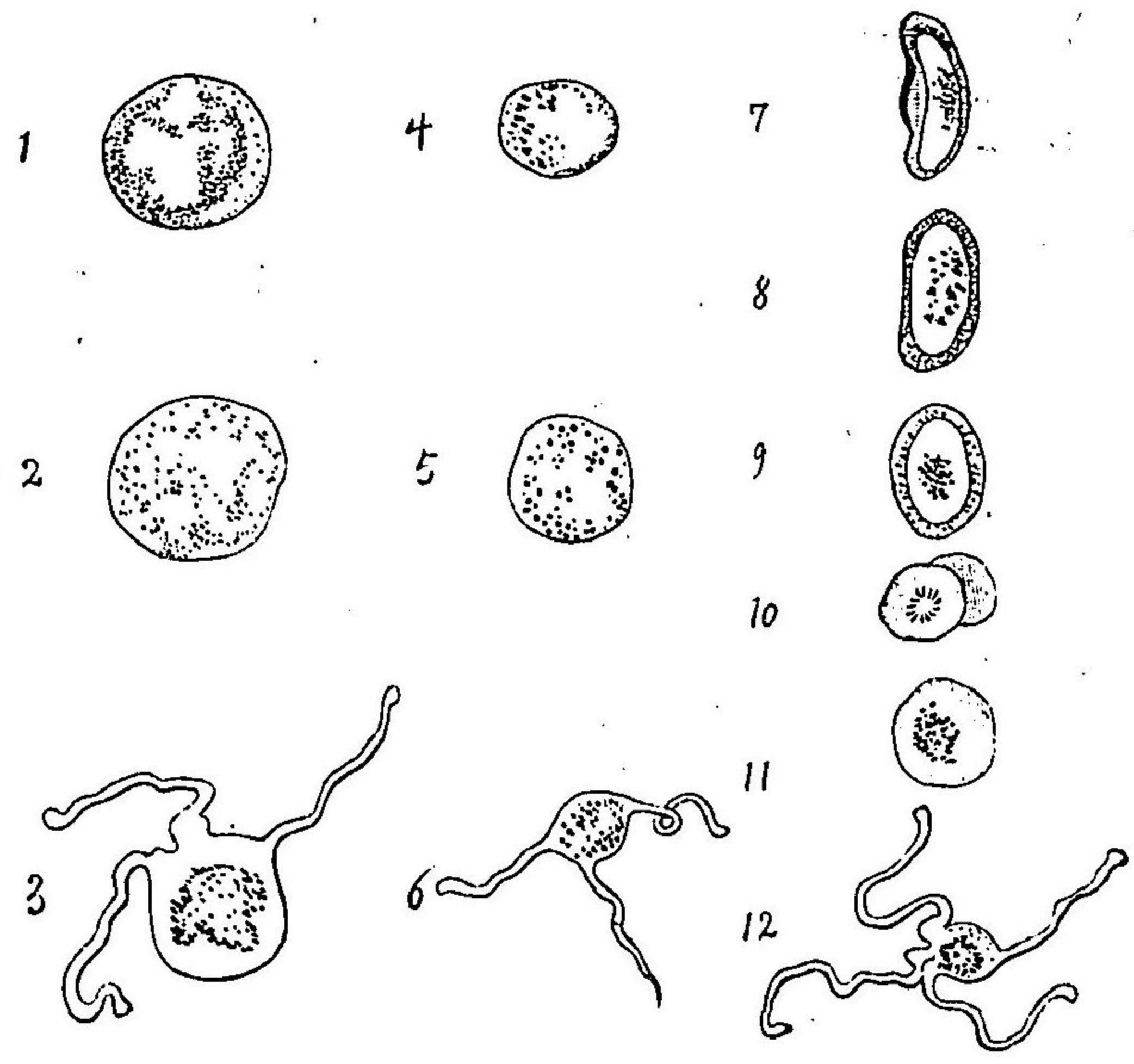
四圖)ハ二十四時間ニ發育シテ、毎日一回ノ發作ヲ來タスモノナリ。同時期ノモノ數多存在スルキハ、稽留熱若シクハ弛張熱ヲ發ス(伊太利ニ於ケル夏期及秋期熱)。

該寄生體ハ甚タ細小ニシテ、之ヲ檢出スルコト頗ル困難ナリ。其運動ハ活潑ニシテ、熱發作ノ直前ニ至レハ縁端ハ稍々帶赤色ヲ呈ス、此際赤血球ハ萎縮シテ鮮黃色ヲ呈スルモノナリ。其萌芽發生ハ血中ニ非スシテ脾臟中ニ於テス、故ニ檢査スルニハ脾臟ノ血液ヲ採取ス可シ。

每日熱性寄生體ニモ亦色素ヲ有セサルモノアリ。

四日熱ハ三日熱ヨリ重症ニシテ、毎日熱ハ尙ホ危險ナリ、是レ甚タ頑固ナル再發ヲ來タシ、且ツ往々内臟ノ重患ヲ誘起スレハナリ。此二個ノ

第 百 八 十 五 圖
 麻刺里亞寄生體鞭條發育
 (據ニ氏ンロンマ及氏ルベナンマ)



一乃至三
 三日熱ニ於テ
 四乃至六
 四日熱ニ於テ
 七乃至十二
 半月ナリ

半月

鞭條

顯微鏡的検査

重症ニ在テハ血液中ニ所謂半月ヲ認ム、第百八十五圖ノ七之ヲ演繹スレハ透明且ツ不動ナル弓狀體アリテ、其中心ニハ色素ノ集積スルモノナリ、是レ亦均シク赤血球内ニ發育シ且ツ生活機ヲ有ス。純然タル日本ノ麻刺里亞ニハ之ヲ認識スルコトナシ。

其他發作時ニハ多少萌芽若シクハ鞭條ノ血液中ニ游離スルモノヲ見ルベシ。

總テノ寄生體ハ往々螺旋狀ニシテ活潑ニ運動スル、一個若シクハ數個ノ突起ヲ形成ス所謂鞭條 Geisseln ニシテ蠢動萌芽ノ一種ナリ、以テ他處ニ固着スルニ甚タ適要ナリトス、第百八十五圖。

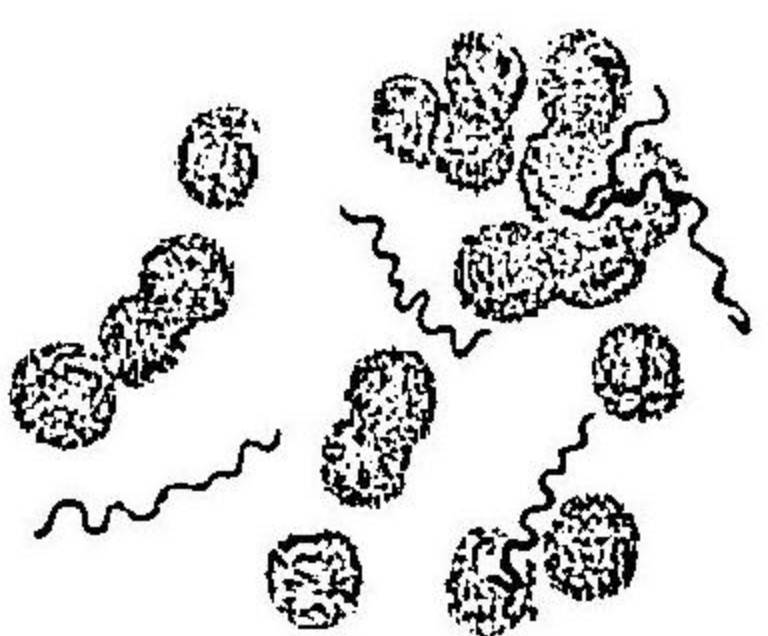
顯微鏡的検査 ヲ行フニハ發作時ヲ以テ最佳トス、即チ指尖ヨリ極少量ノ血液ヲ取り、之ヲ覆蓋硝子若シクハ載物硝子ニ受ケ、而テ強甚ナル擴大ト充分ナル明照トヲ以テ検査スベシ。發作ノ中間時ニハ皮下注射器ヲ以テ脾臟中ノ血液ヲ取り檢スヘシ、日本ノ麻刺里亞ニ在テハ寄生體ハ極テ僅少ニシテ、往々輕忽ニ看過スルコトアリ故ニ一個ノ寄

生體ヲ檢出スルニ至ルマテ、往々數個ノ標本ヲ製セサルヲ得サルヲア
 容易ニ之ヲ檢査スルニハ其着色ヲ要ス。即チ覆蓋硝子ノ血液ヲ乾燥シ、
 之ヲ固定スルカ爲ニ十分時間無水亞爾個保兒中ニ入レ、后チ吸水紙ヲ
 以テ乾燥セシメ、且ツ多クトモ半時間ブレイン氏溶液ニ投入スベシ。其
 溶液ハ「メチーレンブラウ」ノ飽和溶液六〇、 $\frac{1}{2}$ %ノ「エオジン」亞爾個保兒
 (七五%ニ〇)、蒸餾水四〇ナリ。然ル后チ水ニテ洗滌シ、其乾燥ヲ待テ「キシ
 ロー」ルカナダ「ハルサム」ヲ以テ固定スベシ。此標本ニ於テハ赤血球ハ赤
 色ヲ存シ、寄生物ノ體ハ藍青ニ着色シ、其小核ハ暗青色ヲ呈ス。赤血球ノ
 空隙ハ幼稚ノ寄生物ニ酷似スルモ、着色セサル者ナリ。故ニ容易ニ之ヲ
 認知シ得ベシ。白血球ハ均シク藍青ニ着色シ、且ツ其核モ暗青色ヲ呈ス
 ルヲ以テ、寄生物ト誤認セサルヲ注意スベシ。

再歸熱螺旋狀菌 *Recurrentispirillum* 第百八十六圖 又再發空扶斯
Rückfalltyphus (獨) *Relapsing fever* (英) 此寄生物ハ容易ニ血中ニ檢知シ得

再歸熱螺旋狀菌

第百八十六圖
再歸熱螺旋狀菌



ハ赤血球ノ直徑ヨリ三乃至六倍ナリ、着色法ハ「メチーレンブラウ」若シ
 ク「ハブレイン」氏ノ「麻刺里亞」着色法ヲ以テ適當トス。
 再歸熱ノ發作ハ四乃至八日間稽留熱ヲ來タシ、且ツ急ニ分利ヲ以テ終
 結シ、數日間ノ免熱時ヲ經テ再發スルモノナリ。寄生物ハ只タ熱發作時
 ニ於テノミ血中ニ証明サルベシ。余案スルニ、吾人カ認テ以テ再歸熱寄
 生物トナスモノハ、單ニ寄生物ノ蠢動萌芽ニ過キササルベシ、而其寄生物
 ノ果ノ何タルヤ吾人ノ尙ホ未タ研究シ能ハサルモ、恐ラク一種ノ「ブラ

ヘキモノニシテ、他ノ方法ニ由テハ尙
 ホ未タ確診シ能ハサルノ時ニ當テ、既
 ニ診斷ヲ確定スルモノナリ。該菌ハ拔
 塞子狀ニ螺旋シタル細長線絲ニシテ、
 常ニ活潑ノ運動ヲ營ムカ故ニ、標本中
 血球ノ局部ニ運動スル所ニハ、常ニ之
 ヲ認知スルヲ容易ナリ。其線絲ノ長サ

スモヂエム「ナランカ」

龍氏診斷學後編終

四三〇	四三九	四三八	四九三	五三三	五八八	五九八	六〇〇	六二五	六四二	六五九	六六五	六七〇
一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三
吸	明大	水ノ上	Verdauung	腸	腸	腸	腸	腸	腸	腸	腸	腸
吸	腸	腸	腸	腸	腸	腸	腸	腸	腸	腸	腸	腸
六七四	六八三	六九二	七〇一	七一〇	七一九	七八〇	七八九	七九八	八〇七	八一六	八二五	八三〇
六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八
蛋白質	蛋白質	蛋白質	蛋白質	蛋白質	蛋白質	蛋白質	蛋白質	蛋白質	蛋白質	蛋白質	蛋白質	蛋白質
蛋白質	蛋白質	蛋白質	蛋白質	蛋白質	蛋白質	蛋白質	蛋白質	蛋白質	蛋白質	蛋白質	蛋白質	蛋白質

龍氏診斷學後編正誤

鼈氏診斷學後編終

頁	行	誤	正	頁	行	誤	正
四三〇	二	咬	吸	六七四	六	蛋白性網膜炎	蛋白尿性網膜炎
四三九	一〇	開大スノ下	(ル)字ヲ脱ス	六八三	三	多時ニ	多時ヲ
四八八	二	水ノ上	(腹)字ヲ脱ス	六九二	一二	若シクノ下	(ハ)字ヲ脱ス
四九二	一二	Verdammung	Verdammung	六九六	五	費ヤスノ下	(ル)字ヲ除ク
五五三	六	變	變	七〇七	圖中	白字(イ)ハ	(一)
五六三	二	Taenia	Taenia	七六三	四	Hautreflex	Hautreflex
五八八	三	Leder	Leder	七六五	二	Schmerreflex	Schmerreflex
五九八	三	判定シノ下	(ノ)ヲ除ク	七七九	九	ニ貼置ノ上	(紙)字ヲ脱ス
六一〇	三	若シクノ下	(ハ)字ヲ脱ス	七八二	二	經スシテ	經スシテ
六一五	一四	能サス	能ハス	七八二	四	Wilksch-Jische	Wilksch-Jische
六四二	五	格魯鉄	格魯兒鉄	七八八	七	滑車神經	滑車神經
同	九	格魯鉄	格魯兒鉄	七九七	七	ie convulsif	ie convulsif
同	一〇	格魯鉄	格魯兒鉄	八一三	九	進行	進行
六五九	一〇	Tripperfaden	Tripperfaden	八二四	七	口角セリ	口角ヨリ
六六五	四	石炭印華留備寫	石炭印華留備寫	八二五	二	「アトロマ」性	「アトロマ」性
六七二	一	一〇四〇ノ下	一〇四〇ノ下	八三〇	六	Spasisches	Spasische

鼈氏診斷學後篇正誤

明治廿九年十月十九日印刷
全 年十月廿二日發行



譯者兼 發行所
譯者兼 發行所
兌元 發行所
刷者 發行所
刷所 發行所

正價金壹圓七拾錢

石川縣士族
土岐文二郎
東京市四ツ谷區鹽町一丁目廿番地

佐賀縣士族
保利
東京市牛込區築土前町拾四番地

靜岡縣平民
金原寅作
東京市本郷區湯島切通坂町廿一番地

木元由太郎
東京市京橋區三十間堀三丁目十番地

報文社
右全所

肆書捌賣

東京市日本橋區通三丁目
 丸善株式會社書店
 全 日本橋區馬喰町二丁目
 島 村 利 助
 全 本郷區湯島切通坂町
 南 江 堂 書 店
 全 本郷區春木町貳丁目
 半 田 屋 書 店
 大坂市心齋橋筋
 松 村 九 兵 衛
 全 東區北久寶寺町
 丸善書店出張所
 岡山市石關町
 渡 邊 千 代 治

プロフェツソル、ドクトル、ベルツ先生著
 醫學士 竹中成憲 同 本堂恒次郎
 同 馬島永徳 同 土岐文二郎

共 譯

籠氏內科學

全 四 冊
 再 版 印 刷 中

本書ハベルツ先生著內科全書ノ卷帙浩博ナルヲ以テ更ニ簡明ナル良
 內科書トシテ先生カ醫科大學內科教室ニ於テ講授ノ資ニ供セラレタ
 ル稿本ヲ翻譯シタルモノニシテ發兌以來日尙ホ淺キニ已ニ再版發行
 ノ機ニ至レリ依テ今回再版ニハ緒論及診斷ヲ省略シ傳染病、呼吸器、消
 化器、神經系論等ノ如キハ大ニ増補訂正シ其他全般ニ於テモ面目ヲ新
 ニシ且新圖ヲ増加スル所アリ

ヘルツ氏内科全書

木原
第一賣價金貳圓五拾錢 郵税金八錢
第二同 金壹圓八拾錢 同 金六錢
第三同 金貳圓七拾錢 同 金八錢

醫學士 廣瀬佐太郎先生
同 保利 聯先生 合 譯
同 宮島滿治先生

籠氏内科全書

定價
一、二、合卷金貳圓郵稅拾錢 ● 三卷金六拾錢郵稅金四錢 ● 四卷ノ上金四拾五錢郵稅金四錢 ● 四卷中金四拾五錢郵稅金四錢 ● 四卷ノ下五卷ノ上合卷金六拾五錢郵稅金四錢 ● 五卷ノ中金四拾五錢郵稅金四錢 ● 五卷ノ下六卷合卷金九拾錢郵稅金六錢 ● 七卷ノ上金壹圓郵稅金六錢 ● 七卷ノ下金四拾五錢郵稅金四錢

舊全修學校々長行徳永考纂譯

押入獨和字書大全

美綴 全一冊
紙數千六百九頁
特別賣價金參圓

本書ハ獨逸字書中ニ於テ精確簡明ヲ以テ其名ヲ博シタル「ウエニヒ」氏ノ字書ヲ原トシ傍ラ「マイエ
ル」ホフマン」「サンデルス」氏等ノ大字書ヨリ纂聚シタル者ニシテ諸専門學科ノ術語等モ其緊要ナ
ル者ハ悉ク載テ之ヲ漏ス「ナカラ」ヲ務メタル之ノ引用ニ供セシ原書ハ「クロイスレル」氏ノ羅匈
字書「ハイゼエー」「カルトシユミット」ニ氏ノ他國字書「ロート」氏ノ醫學術語字書「コツセニ」氏ノ
羅匈醫學術語字書ナリトス故ニ本書ニ掲ル所ノ語數ハ八萬數千アリト雖モ其半數ハ殆ト他國語及諸
科ノ術語之レヲ占ム就中其醫學術語ニ富裕ナルハ引用ノ書目ヲ一見セハ亦以テ之ヲ知ルニ足ルヘシ

今田東先生閱
醫學士 鈴木規矩治
全全 淺田 決治
全全 柳 精一 合 譯

海都痛及解剖書

全一冊
美綴實價金四圓七拾錢
特別金三圓七拾錢

本書ノ簡明ナルヲハ世ノ知ル所ナリ今回寫眞銅版ヲ以テ毫モ原本ト異ナルヲナク鮮明ニ印刷シ圖中
 横文ヲ存シ一々譯語ヲ附シタルハ拉丁(羅旬)名ヲ學ハント欲スル者或ハ譯語ヲ知ラント欲スル者ニ
 ハ最便ナリ加フルニ各圖下一々解譯ヲ附セルヲ以テ解剖ヲ學ハント欲スル者或ハ試驗ニ應シ或ハ復
 習シ或ハ手術ニ先チ豫メ其部位ヲ知ント欲スル者ニハ甚タ便ナリ

海都滿氏解剖書附錄

獨逸文圖解

全一冊

此書ハ獨逸文ヲ解シ若クハ解剖學ヲ復習シツ、獨逸文ヲ學ハント欲スル諸君ノ爲メニ發兌仕候但シ
 全部御購求ノ御方ヘハ金五十錢ノ割圖解ノミ御用ノ御方ヘハ金壹圓貳拾錢ノ所今度特別割引ヲ以テ
 金九十六錢ニテ差上可申候

醫學士 山本治郎平編纂

改訂日本藥局方彙異註

全一冊

定價金 五拾錢
 特別賣價 金卅錢
 郵税金 八錢

此書ハ今回改正發布セラレタル日本藥局方ニ就キ藥品ノ効用及用量ヲ附シ必需ノ處方ヲ載セ傍ラ
 ●客年改正●獨逸ノ藥局方ヲ對比シ以テ内外藥局方ノ異同ヲ示シ又附錄ニハ度量衡表、大人小兒用
 量比較用量名目表及ヒ極量提覽表等ヲ加ヘ醫師及ヒ藥劑師ノ日常資助ニ供スヲ以テ目的トスルモノ
 ニン當業者ノ坐右缺ク可ラサルノ良書ナリ

長田先生編纂

增補訂正藥物示要

第二版全二冊

賣價金 貳圓四拾錢
 特別賣價 金壹圓貳拾錢
 郵税金 貳拾錢

本書ハ大ニ舊板ヲ訂正増補シ第一版ノ面目ヲ更新シタリ今其概畧ヲ摘記ス●新藥及ヒ新說ヲ增加シ
 タル●數多ノ處方ヲ增加シタルト新ニ主治撮要ノ一欄ヲ設ケタル●各藥ノ下ニ日本局法ニ隨ヒ
 極量ヲ附シタル●讀者ノ各欄ノ冒頭ニ(常)(注)(劇)(毒)ト記シテ一目瞭然タラシムル●劇、毒、
 注ノ三藥ニハ參照ノ一欄ヲ設ケ各國ノ名稱及ヒ植物名ヲ附シタル●原文ニ假名ヲ附記シ且ツ緊用ノ
 個所ハ◎點ヲ附シタル●其外讀者ノ利益尠ナカラス右ハ實地醫家藥業家受験者諸君ノ便益ヲ圖リ
 テ編者カ多年經驗ヲ以テ日本醫說ノ基本ニ供セント欲シテ編纂シタルモノナレハ既發ノ藥物書ト比

較シテ陸續購讀ノ榮ヲ給ハラシヨ

大軍醫々學士 石黒宇宙次 閱
侍醫々學士 桂秀馬 校
北 越岩田屯 編

内類症簡明

全一冊

定價金五拾錢
特別賣價金三拾錢
郵税金四錢

軌近醫家需用ノ書坊間ニ在ルモノ汗牛充棟知ラス其幾干ナルヲ繙者ヲシテ轉々望洋ノ嘆アラシメン
トス識者茲ニ憾アル久矣頃日岩田先生百家ヲ鹽梅折衷シ以テ内科的類症ヲ簡別シ纂述一卷ヲナス字
句明晰其名ニ負カス寔ニ珍袖ノ寶典ナリ弊館其原稿ヲ請ヒ得テ上梓今已ニ成ル江湖ノ諸君夫レ積々
購覽ヲ玉ヘヨ

醫學士 磯彗先生纂譯

婦人病示要

第二版

定價金四拾錢
郵税金四錢

此書ハ會テ磯學士ノ纂譯ニ係リ行文簡單明瞭能ク原著ノ要綱ヲ得タリト賞セラレ日新醫海ニ帆影ヲ

現スニ已ニ數年初版已ニ盡クルヲ以テ新ニ第二版ヲ發刊ス杏林有益ヲ希フ君子ハ幸ニ一卷ヲ購ヒ舌
ヲ敲シテ其味ヲ賞セラレンコトヲ

醫學士 古川榮 閱
醫學士 保利聯 譯

衛生室內運動

全一冊

定價金卅錢
郵税金四錢

軌近衛生ノ書多シト雖凡皆ナ一般衛生ニシテ體育ノ如キハ敢テ顧ミル者ナキカ如シ此書ハ獨逸國大
醫「ドクトル、シユレーベル」氏ノ原著ニシテ氏カ多年ノ經驗ヲ積ミ衛生ニ關スル運動法ヲ丁寧ニ説明
セシ者ナリ醫師ハ勿論衛生ニ熱心ナル諸君殊ニ貴婦人ノ如キ常ニ外出ヲ厭フ人ハ必讀ス可キ良書ナ
リ請フ一本ヲ購ヒ以テ貴命ヲ全フセラレヨ

醫科大學教授醫學博士 弘田長先生編纂

增訂兒科必携

第二版

郵正 稅價 金九拾錢
郵正 稅價 金八拾錢

第三版

郵正 稅價 金壹圓五拾錢
郵正 稅價 金拾錢

本書ハ大ニ第一版ヲ改良シテ緊要ナル疾病ニハ其原因、症候、經過、豫後、等新ニ加ヘ圖ヲ挿ミ確實ナル新療法ヲ採リ殊ニ卷初ニ小兒生理ノ通論ヲ加入シ全ク舊書ノ面目ヲ一變セリ

醫學士 山田謙治先生著

婦人病學

全四冊

第一卷 正價金壹圓貳拾錢
 第二卷 正價金壹圓貳拾錢
 第三卷 正價金九拾錢
 第四卷 正價金七拾錢

- 第一卷 一般診斷法、一般療法、發育及先天異常卵巢疾病、
- 第二卷 子宮諸病、子宮周圍ノ疾病、ヲ詳論ス
- 第三卷 膈外陰部膀胱尿道及乳房ノ疾病ト生殖器ノ官能障害トヲ詳論ス
- 第四卷 乳房諸病、月經及月經異常附萎黃病、不妊症、

此書ハ醫學士山田謙治先生カ我國ニ詳細ナル婦人病學ノ書ナキヲ歎シ歐米諸大家ノ著書ト先生ガ多年ノ實驗トヲ參照シ編纂セラレタルモノニシテ全書ヲ十數部ニ分テ各部ヲ篇章節ニ細分シ全部ヲ通讀セサルモ各章節ニ於テ能ク其意ヲ了解シ易カラシムル者ニシテ他ノ婦人科書中見ルヘカラサル要點頗ル多ク古來見サル處ノ良書ナリ請フ醫學家及醫學生諸君常ニ之ヲ座右ニ備ヘ玉ハ、裨益少ナカラサルヘシ

醫科大學教授醫學博士河本重次郎先生著

眼科學

第三版 全三冊

上卷 定價金壹圓四拾錢
 中卷 全 金壹圓四十錢
 下卷 全 金壹圓五拾錢

目次

上卷、總論、眼瞼、結膜、角膜、鞏膜諸病、
 中卷、視機檢查法、檢眼鏡檢查法、葡萄膜諸病、網膜諸病、視神經諸病、弱視及黑內障
 下卷、硝子體諸病、水晶體損傷、水晶體異常、屈折及調節異常、眼筋諸病、眼窩諸病

醫學士 桂秀馬纂著

屈氏外科總論

上卷

定價金壹圓六拾錢
 郵税金 八錢

◎ 中下卷印刷中 ◎

出版日尙淺キモ非常ノ好評ヲ得第四版最早賣切レタルヲ以テ今般更ニ精圖等ヲ相加ヘ第五版ヲ發兌ス江湖ノ諸彥陸續御購求アラントナ

第四高等學校教授
醫學士 有松戒三纂譯

外科通論

全壹冊

正價金壹圓六拾錢
郵税金 八 錢

防腐手術準備、手術式、防腐藥劑帶技術及外科病理ノ要ヲ稱シ簡ナルモ粗ニ失セス受験學生ノ暗記
用ニ適スルハ論ヲ待タヌ又實地家ノ傍ニ缺ク可カラサル良書ナリ

醫學大學名譽教師ドクトル、ベルツ先生序
醫學士 江馬 賤男先生編纂

增補改訂新藥說約 臨床實驗

第二版全壹冊

紙數三百十餘頁
定價金壹圓廿錢
郵税金 六 錢

右ハ更ニ新藥數十種ヲ增補シ實驗說ヲ改訂シ尙ホ胃液検査法尿法及中毒療法ヲ附録シ以テ其体裁
ヲ全ク一新ス日新進歩ノ今日苟モ刀圭ニ從事スルノ諸彦ハ坐右一日モ缺クベカラザルノ良書ナリ

醫學大學小兒科教授醫學博士 弘 田 長 校閱
前醫學大學小兒科助手醫學士 近藤 常次郎
醫學大學小兒科助手醫學士 伊藤 祐彦
醫學大學小兒科 醫 員 長 澤 巨 譯述

禹氏小兒科學

全四冊

卷一、二、三 正價各冊金七拾錢
郵稅各冊金 六 錢
卷四、正價金八拾錢、郵税金六錢

(第一)目錄總論健康小兒、小兒健全學、小兒疾病通論、症候學及診斷法攝生法及治療法、小兒疾病
ノ統計、全身病、附錄、中毒、(第二)目錄、口腔疾病、唾腺ノ疾患、扁桃腺、口蓋及咽頭ノ疾病、胃及
腸ノ疾病、肝臟ノ疾病、脾臟ノ疾病、腸間膜腺ノ疾病、腹膜ノ疾病、膀胱、尿道、膈ノ疾病、
管、肺組織及肋膜ノ疾病、血行器ノ疾病、腎臟ノ疾病、膀胱、尿道、膈ノ疾病、

此書ハ獨乙國醫學大學小兒科教授ドクトル、禹 氏ノ原著ニシテ譯者ハ多年我醫學大學小兒科ニ在
ルノ專家ナリ、專門ノ學識ヲ以テ其專門ノ書ヲ譯ス其書ノ間然スベキナキ固ヨリ論ヲ俟タズ
而シテ譯者ガ特ニ禹 氏ノ小兒科學ヲ撰ミタル所以ハ簡ニ要ヲ得然カモ小兒科學ノ神髓ヲ穿チタル者
此書ヲ措テ他ニ求ムベカラザレバナリ醫學士并ニ學生諸君一度之ヲ繙カバ其言ノ虛ナラザルヲ知ラン

醫學博士 佐藤三吉 閱
醫學士 寺田 織尾 纂著

外科各論

卷ノ一 發行
卷ノ二

卷ノ一 正價金壹圓
卷ノ二 正價金九十錢
郵稅各冊 金 六 錢

外科學ノ著譯書汗牛充棟モ管ナラザルノ時ニ際シ弊舖ノ本書ヲ發賣スルハ時好ヲ追フテ然ルニアラズ蓋シ從來ノ著譯書ヲ見ルニ或ハ卷帙浩翰ニ過ギテ披閱ニ便ナラズ或ハ記事簡略ニ失シテ參考ニ資セズ其著譯者ノ如キモ或ハ僅カニ外科學ノ一端ヲ窺フノミニテ輕シク之ヲ著述シ或ハ微シク歐米ノ文章ヲ解スルノミニテ卒カニ之ヲ翻譯シタルノ迹ナキニアラズ斯ノ如キハ豈ニ我邦醫學ノ發達ヲ扶クル者ト云フ可ケンヤ本書ノ著者ハ不飛不鳴ノ志ヲ抱キテ醫科大學附屬醫院ニ奉職スルコト茲ニ五年其間學說ハ獨塊諸大家ノ外科書ニ資リテ親シク之ヲ實驗シ圖書ハ患部ノ實況ヲ視テ身カラ之ヲ摸寫シ然ル後ニ始メテ本書ノ著述ニ從事シタルヲ以テ材料ノ豐富ナル學說ノ斬新ナル文章ノ流暢ナル挿圖入ノ精細ナル等ハ近來ノ外科書中稀ニ見ル所ナリ讀者若シ一タビ此書ニ接セハ毫モ隔靴搔痒ノ憾ナクシテ不知不識ノ間ニ外科ノ學說ト應用トヲ悟了スルニ至ラン請フ江湖ノ諸彦購讀アレ

醫學博士三浦守治先生編纂

剖檢法

全一冊 正價金九拾錢

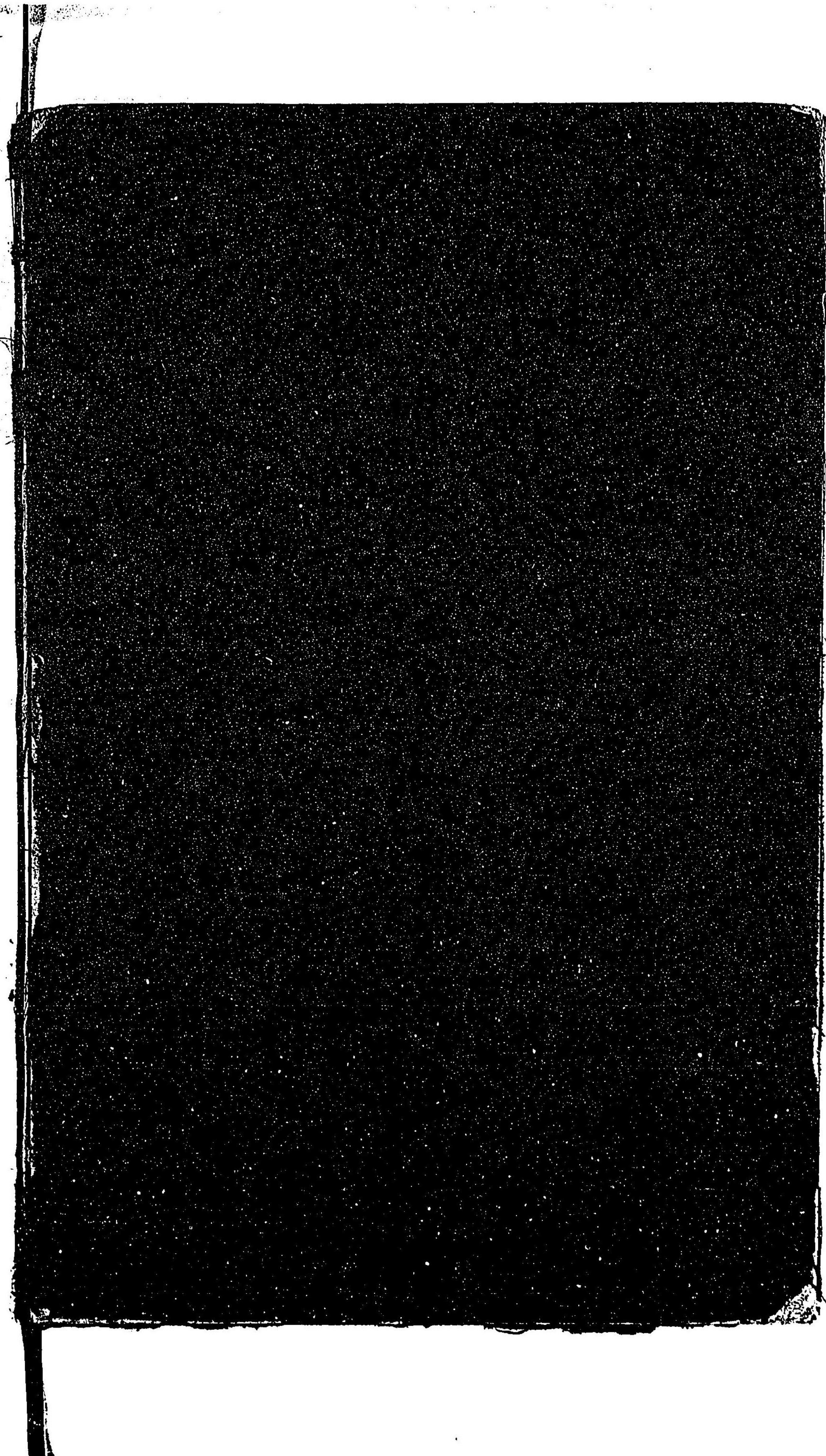
金原寅作

東京本郷區湯島切通坂町二十一番地

52

別庫

生



52
列庫
4

(M)

52
4